

# 身近な課題に取り組み生きる力を育む 地域課題解決型キャリア教育

2013年、活気あふれる弘明寺商店街近くに移転した3部制定時制の横浜総合高校。移転当時から築いてきた地元との関係を土台に、「総合的な学習の時間」で地域課題に取り組み単位が設けられました。うちの生徒だから、都会の学校だから余計に価値があると先生方が語る実践内容を紹介しします。

## 商店街と区役所からの 出題に応える活動を通して 聞く・伝える力を付ける

第11回 横浜総合高校 (神奈川県・横浜市立)

取材・文／江森真矢子



横浜市立横浜総合高校が地域活性化プロジェクトで連携しているのは「横浜で一番元気な商店街」を自任する弘明寺商店街、人口約20万人を抱える横浜市南区である。横浜の中心部ほど近い、横浜市営地下鉄と京急電鉄2つの弘明寺駅の間、約30

0メートルに広がる商店街の人通りも多く、春になると花見客でも賑わう。このすぐそばに開校12年目の同校が移転してきたのは2013年度の8月。遡って03年、港高校・横浜工業高校・横浜商業高校定時制の3定時制課程を再編整備し、県内初の3部制・単位制総合学科高校として開校したのが横浜総合高校だ。

移転と同時期に赴任してきたガイダンス部主任の近藤哲史先生が「自分たちでは、伸びしろ日本一」と言っています。例えば中学時代不登校だった生徒が目の前で立ち直っていく、そういった姿が励みになっています」と表現するように、多様な生徒が自分のペースで学び、早ければ3年、最長6年をかけて所定の単位を修め卒業していく。移転計画が持ち上がった時から「地域との関係が成否を分ける」と考え移転直後から地域貢献活動をスタート。年3回、商店街や学校周辺の清掃に取り組んでいる。また、部活動で商店街のイベントを手伝ったり、近隣の老人福祉施設の方々に学校にお招きするなど、地域の中で生徒の活躍の場を広げてきた。

### 聞く・伝える力を付け 早期退職や中退を予防する

総合的な学習の時間を担当するガイダンス部で企画した地域活性化プロジェクトは15年度より「コミュニケーションとプレゼンテーション」の単元で実施されている。商店街と南区役所から提示された課題に対してグループで解決策を提案する約3ヵ月間のプロジェクトだ(図1)。

同校は午前中のI部、午後のII部、夜間のIII部と12校時まで、各年次の入学定員は400人弱、全校で約1100人という大きな学校だ。普段は個々人で時間割の違う各年次生が、同じ時間に授業を受けるのが1年次の産業社会と人間、2年次以降の総合的な学習の時間である。移転前は進路未定のまま卒業していく生徒が4割近くいた同校では、ここ数年で内容の充実を図ってきた。

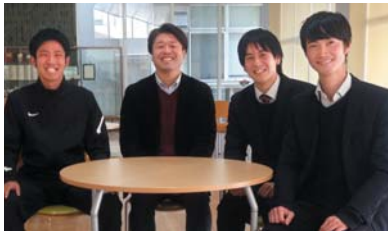
3年次の11月から1月にかけて行うプロジェクトで身に付けたいのは「聞く・伝える」という基本的なコミュニケーションの力。社会人としての基礎的な力であることは言うまでもな

図1 3年次(以降)総合的な学習の時間の単元「コミュニケーションとプレゼンテーション」の内容

「聞く・聴く力(理解する力)」と「伝える力」について学び、①社会人として必要な力の基本を付け②途中退学・早期離職を防ぐ学習					
5 1/25 ポスターセッション	4 1/11 ポスター制作	地域貢献活動 Like!Work講座	3 11/22 企画書制作	2 11/9 ブレインストーミング	1 10/26 オリエンテーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の依頼者を招いたポスターセッション</li> <li>相互評価(投票)</li> </ul> <p>不特定多数に対する発表(伝える)をする/仲間の発表を聴く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスター完成</li> <li>説明シナリオor原稿完成</li> <li>発表練習(音読セッション)</li> </ul> <p>異年齢コミュニケーション/調査スキル/チームワーク/大人や仲間の意見を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書に沿った実地調査</li> <li>インターネット、図書室などでの調査(Like!Work講座)</li> <li>社会人から企画やプレゼンについて学ぶ(希望者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連想ゲーム(無言で、ヒントから言葉を当てる)</li> <li>前回出したアイデアから現実的なものを抽出</li> <li>依頼者や利用者の反応を考える</li> <li>企画書を書く</li> </ul> <p>伝える難しさ、伝わる喜びを知る/他者の立場に立って考える/アイデアの吟味</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブレスト・KJ法練習</li> <li>商店街の長所短所検討</li> <li>課題の真の原因検討(なぜ?を5回重ねる)</li> <li>解決のアイデア出し</li> <li>課題解決の方向性決定</li> </ul> <p>ブレインストーミング/KJ法/話し合い/共創的ディスカッション/合意形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的とゴールイメージ提示</li> <li>課題とその背景説明</li> <li>グループづくり</li> <li>取り組み課題決定</li> </ul> <p>得てもらいたい経験やスキル</p>

ダウンロード可

※ダウンロードサイト: リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス (Vol.417)



左から芳野壮太先生、近藤哲史先生(ガイダンス部)  
黒田貴志先生、谷 兼太郎先生

地域貢献活動は授業の時間帯に合わせ、商店街や学校周辺の清掃(Ⅰ・Ⅱ部)や、市の啓発活動のためのティッシュ配り(Ⅲ部)を行う。



## 小さいけれど 見違えるような変化

いが、他者の話をきちんと理解したり、疑問に思ったことを尋ねる、相談する、思いを伝えられるようになることで中退や、就職後の早期離職を予防したいという考えからだ。近藤先生は前任校の経験から、都会の限定的な人間関係の中で育ってきた生徒たちが地域で多様な大人に触れることで得るものは大きいと確信していた。アイデアが良ければ実際に採用される可能性もあるリアルな課題を設定することで、主体的に社会と関わり、やり終えた時に達成感を得られるようにカリキュラムを組んだ。

初年度は弘明寺商店街の担当者と相談し、ゆるキャラのオグジ&サゲジメジャー化計画と自転車逆走防

止策の2つをテーマとした。メジャー化のための「Twitterアカウント開設案」は商店街に受け入れられ、運用を開始。2年目はその「Twitter」のフォロワーを増加させる計画、そして新たに南区役所が企画した食による誘客策「みなみやげ」のブランド力UP計画がテーマとなった。

オリエンテーションでお題とその背景である地域課題を伝え、2回目はグループワークの練習をしながらアイデアを出し、3回目にアイデアを掘り下げて企画書にまとめるのが11月まで。企画に沿った調査は生徒の自主性に任せ、課外の時間を使って行う。さらに希望生徒対象で、高校生に仕事の楽しさを伝えているNPO法人「INKWORKS」によるプレゼンテーション講座が開かれ、約30人が参加した。昨年度、調査に行ったのは各部約3割

ほどだったが、「みなみやげ」に選定された商品を食べ歩いたり、商店街で70人にインタビューを行ったチームもあったそうだ。

商店街と区役所の担当者も招くポスターセッションで幕を閉じたプロジェクトは、2年目から各部の若手担任が運営を担当した。生徒100人以上を対象に、担任団と共にファシリテーションを担った先生方は「小さな変化かもしれないが見違えるような成長を見せてくれた」と口々に言う。「グループワークをするなら休みたいと言っていた生徒もいたのに、最後には一緒にがんばったチームで写真を撮る姿が見られた」(Ⅰ部・谷先生)、「やれるのにやる気を出さなかった生徒でもスイッチが入った途端、自分で動くようになった。放課後残って準備をしたり、反省をしてそれを活かすことができるようになった」(Ⅱ部・黒田先生)、「人前で喋るのが苦手だった生徒が、インフルエンザに罹っても最後の発表には絶対にやりたいと言い張ったり……」(Ⅲ部・芳野先生)。

その変化を大きな変化として認めてくれる先生方がいるからこそ、

生徒たちの達成感も大きなものになったのだろう。

## 地域で活動すると 簡単に壁を越えられる

「学校は部分社会と言われるように、教員も生徒も狭い世界に閉じがちですが、地域に出て活動すると越えられなかった壁を驚くほど簡単に越えてしまいます。街中でティッシュを配るといっただけでも学校では作れない緊張感があり、達成感を得ることができるんです」と近藤先生は言う。「人間関係に偏りのある高校生時代に、知らない人に考えを正しく伝えようとトライした経験は大きいと思います」(芳野先生)。「本当は社会全体で教育をすべきですね。学校の中だけでなく生徒の、現実社会の中での経験をもっと増やしてあげたい」(黒田先生)。

地域社会と関わることなく育つ子どもも多い都市圏であればなおさらだ。「生徒が街中で何かしている声をかけてくれるおじいさんおばあさんがいるんです。文化祭にも地域の人に来てくれるようになりました」(谷先生)。教員チームの思いは一致しているようだ。移転から4年、今春の卒業生の進路未定率は19%まで下がった。地域で育った生徒たちと高校のこれからに、さらに期待したい。

### School Data

2003年創立/総合学科/3部定時制/生徒数1116人(男子615人、女子501人)/進路状況(2016年度) 大学・短大39人、専門学校67人、職業訓練等2人、就職112人、アルバイトその他進路未定56人